

資料4 人口目標の考え方

(1) 人口の現状

➤ 下のグラフは、令和2年までは国勢調査による人口、令和7年以降は令和5年12月の社人研による推計人口です。

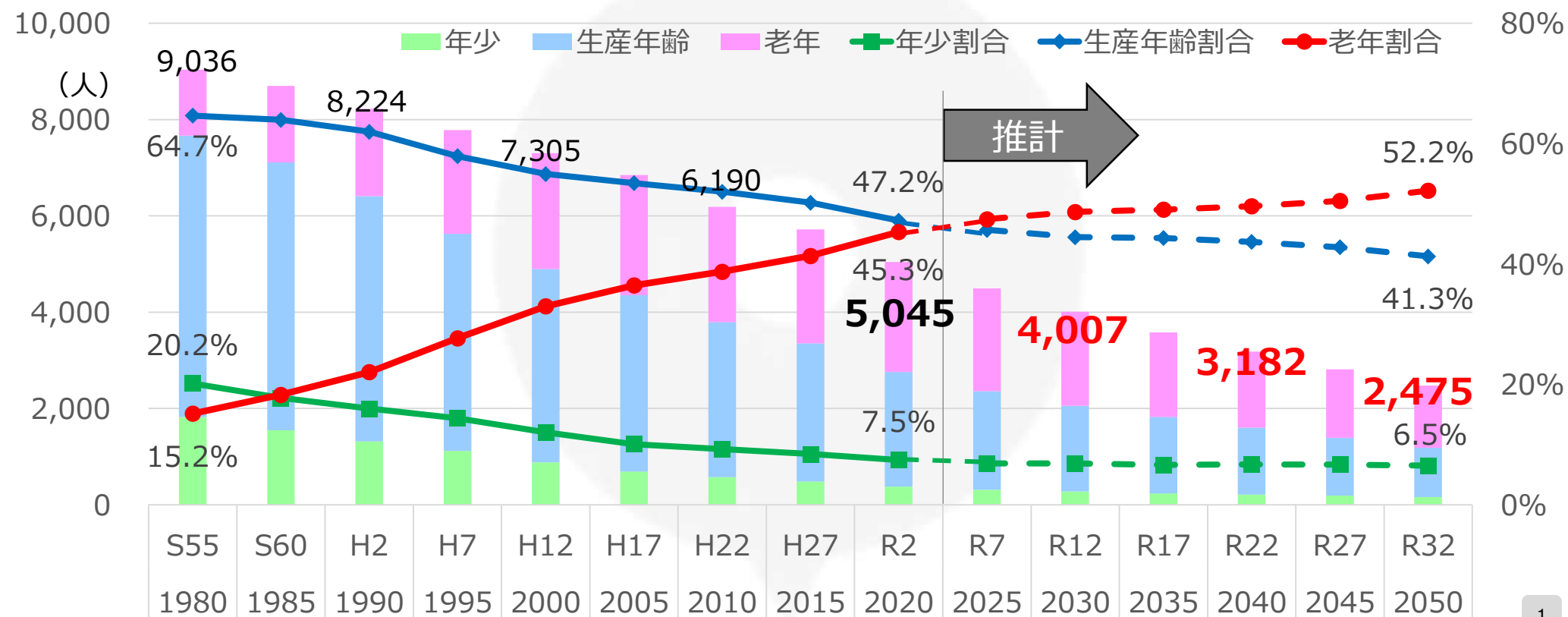
年少人口： 昭和59年 1,822人(20.2%) ⇒ 令和2年 376人(7.5%)

生産年齢人口： 昭和59年 5,844人(64.7%) ⇒ 令和2年 2,382人(47.2%)

老年人口： 昭和59年 1,370人(15.1%) ⇒ 令和2年 2,287人(45.3%)

➤ 平成22年からは老年人口も減少する本格的な人口減少段階に入っています。

➤ 社人研推計によると、高齢化率は、令和7年に生産年齢人口の割合を上回り、令和27年には町全体で50%を超える見込みです。



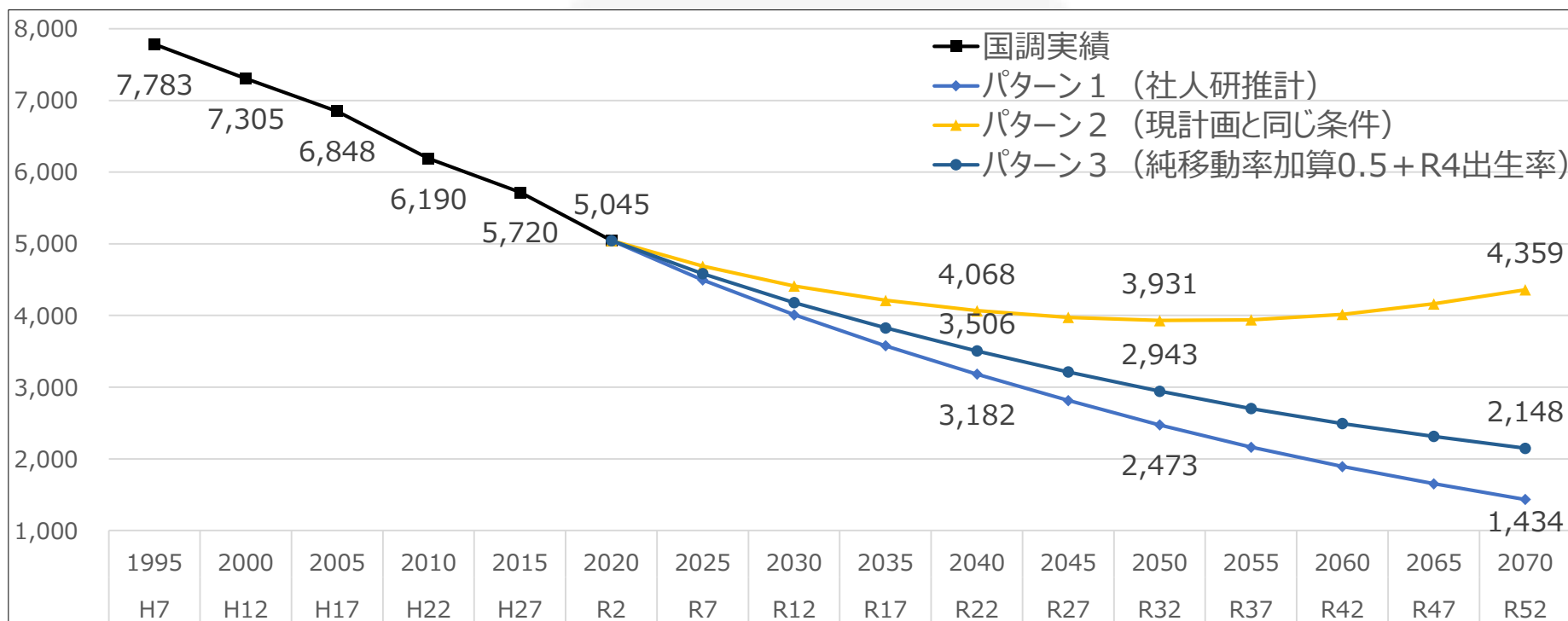
(2) 将来の見通し（仮定値別の推計結果）

次期計画における各種施策の基礎とするため、内閣府「地方人口ビジョン策定のための手引き」に準拠し、コーホート要因法により以下の3パターンで将来推計を行いました。（パターン1は令和5年社人研推計。）

パターン	仮定値		推計結果項目	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
パターン1（社人研推計）	出生	R5社人研推計の合計特殊出生率	合計特殊出生率		1.21	1.25	1.28	1.29	1.29	1.29	1.29	1.29	1.29	1.29
			出生数		87	77	68	62	52	43	36	31	28	25
			自然増減		-381	-341	-308	-285	-242	-204	-181	-165	-155	-139
	死亡	R5社人研推計の生存率	社会増減		-169	-141	-123	-105	-123	-139	-131	-104	-83	-80
			総人口	5,045	4,496	4,009	3,577	3,182	2,815	2,473	2,164	1,893	1,653	1,434
			年少人口	376	308	275	238	213	187	162	134	113	98	86
	転入出	R5社人研推計の純移動率	生産年齢人口	2,382	2,055	1,782	1,587	1,390	1,203	1,022	872	772	646	556
			老年人口	2,287	2,133	1,952	1,752	1,580	1,424	1,290	1,157	1,008	910	792
			高齢化率（%）	45.3%	47.4%	48.7%	49.0%	49.6%	50.6%	52.2%	53.5%	53.2%	55.0%	55.2%
パターン2（現計画と同一条件）	出生	国の人口置換水準（2040年に2.07）まで上昇、2040年以降は同じ（現計画と同じ条件）	合計特殊出生率		1.65	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
			出生数		133	145	159	177	184	189	195	215	246	264
			自然増減		-336	-319	-286	-264	-224	-197	-174	-147	-135	-135
	死亡	R5社人研推計の生存率	社会増減		-20	43	86	121	131	151	185	223	283	332
			総人口	5,045	4,688	4,413	4,212	4,068	3,973	3,931	3,940	4,015	4,162	4,359
			年少人口	376	376	427	489	538	584	619	640	672	734	812
	転入出	R5社人研推計の純移動率に、年代別に設定した割合（合計1.0）を加算（現計画と同じ加算割合）	生産年齢人口	2,382	2,179	2,034	1,971	1,950	1,961	2,003	2,102	2,268	2,408	2,560
			老年人口	2,287	2,133	1,952	1,752	1,580	1,429	1,308	1,197	1,074	1,021	987
			高齢化率（%）	45.3%	45.5%	44.2%	41.6%	38.8%	36.0%	33.3%	30.4%	26.8%	24.5%	22.6%
パターン3（最新出生率＋純移動率加算0.5）	出生	住田町のH30-R4人口動態統計の最新値（1.34）とする	合計特殊出生率		1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34
			出生数		102	95	89	87	81	73	65	62	60	57
			自然増減		-367	-338	-306	-283	-238	-204	-183	-166	-159	-146
	死亡	R5社人研推計の生存率	社会増減		-92	-64	-48	-35	-55	-65	-58	-42	-21	-23
			総人口	5,045	4,584	4,180	3,826	3,506	3,212	2,943	2,702	2,493	2,313	2,148
			年少人口	376	334	325	308	292	277	260	236	215	202	192
	転入出	R5社人研推計の純移動率に、年代別に設定した割合（合計0.5）を加算	生産年齢人口	2,382	2,117	1,904	1,766	1,634	1,508	1,384	1,288	1,238	1,148	1,073
			老年人口	2,287	2,133	1,952	1,752	1,580	1,427	1,299	1,177	1,040	963	883
			高齢化率（%）	45.3%	46.5%	46.7%	45.8%	45.1%	44.4%	44.1%	43.6%	41.7%	41.6%	41.1%

〈推計結果のまとめ〉

- パターン1の場合、わずかに緩やかながら、現状に最も近い減少ペースとなります。人口は、令和42年頃に2,000人を割り込みます。
- パターン3の場合、現計画の人口目標を下回ることにはなるものの、現状よりも減少ペースは緩やかになり、2040年に3,500人、2,050年に3,000人弱を維持します。
- パターン2の場合、人口は令和32年に底を打ち、増加に転じます。用いた仮定値には出生、転入出とも高い理想が込められているため、現状との間に大きな開きがあることは否めません。



(3) 人口目標の設定

次期計画では、次の考え方により、人口目標の設定に前述の推計「パターン3」を採用します。

〈考え方〉

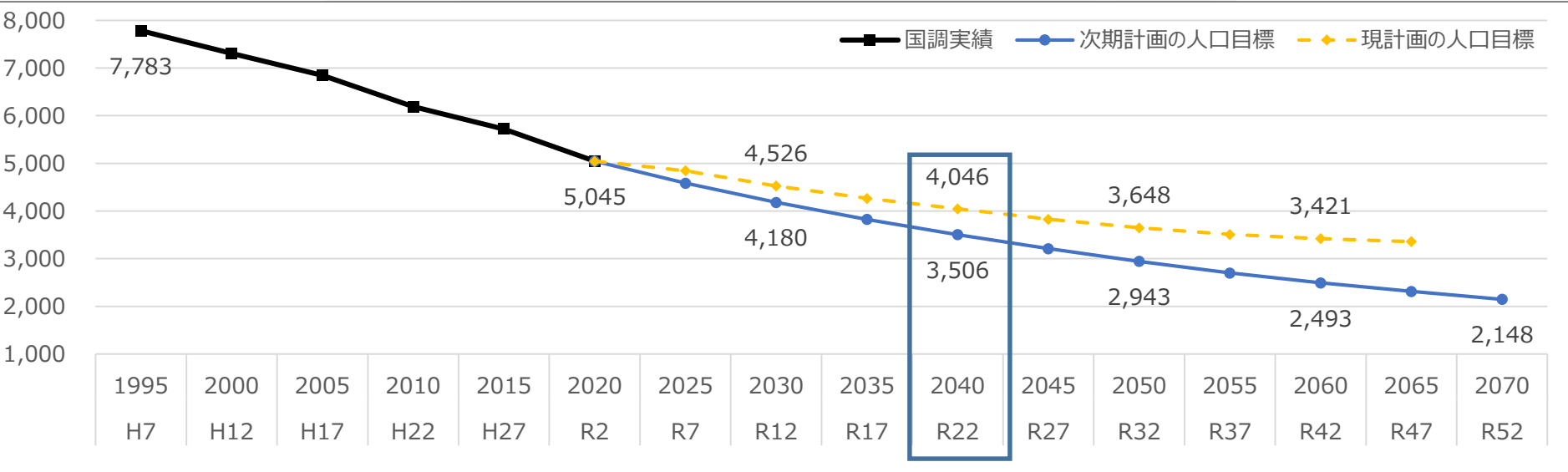
- 現計画に続き、自然増減の「出生」と社会増減の「転入」「転出」に着目した施策の展開により、人口減少社会に果敢に挑み、社人研推計からの上振れを目指すこと。
- 「出生」対策として、妊娠、出産、子育てに対する支援に注力し、出生率の維持と出生数の増加を目指すこと。
- 「転入」「転出」対策には、より現実的な目標値を設定した上で、人口構造の改善につながるよう、特に若年者の転入増を目指すこと。

〈人口目標の設定に用いた仮定値の比較〉

	現 計 画	次 期 計 画
出 生	国が示す人口置換水準まで段階的に上昇 ・2025年：1.65 ・2030年：1.80 ・2035年：1.935 ・2040年以降：2.07	住田町の最新値（H30-R4人口動態統計） ・2025年以降：1.34
死 亡	H30社人研推計による	R5社人研推計による
転入出	H30社人研推計の純移動率に次の割合を加算 ・0～4歳⇒5～9歳：0.10 ・5～9歳⇒10～14歳：0.10 ・10～14歳⇒15～19歳：0.20 ・15～19歳⇒20～24歳：0.30 ・20～24歳⇒25～29歳：0.10 ・25～29歳⇒30～34歳：0.08 ・30～34歳⇒35～39歳：0.06 ・35～39歳⇒40～44歳：0.04 ・40～44歳⇒45～49歳：0.02	R5社人研推計の純移動率に次の割合を加算 ・0～4歳⇒5～9歳：0.05 ・5～9歳⇒10～14歳：0.05 ・10～14歳⇒15～19歳：0.10 ・15～19歳⇒20～24歳：0.15 ・20～24歳⇒25～29歳：0.05 ・25～29歳⇒30～34歳：0.04 ・30～34歳⇒35～39歳：0.03 ・35～39歳⇒40～44歳：0.02 ・40～44歳⇒45～49歳：0.01

(4) 次期計画の人口目標

次期計画における人口目標は「2040年に3,500人」とし、の推移は次のとおりです。



また、計画期間中の指標は次のとおりです。

R7	R8	R9	R10	R11
2,025	2,026	2,027	2,028	2,029
4,584人	4,503人	4,422人	4,341人	4,260人
増減	-81人	-81人	-81人	-81人